

10 月報(2026 年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらず福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【聖フランシスコ帰天 800 年の巡礼旅行に参加して】

藤井 幸恵



アシジから 2 時間あまりの高い山の上にその修道院は建っていました。

ラ・ヴェルナ修道院、ここは聖フランシスコが初めて建てた修道院で数名の弟子と共に小さな小屋のような建物からの出発でした。

そして、ここでフランシスコは、祈りと断食(月の 1/3)を行い、閉じこもるのではなく、人々と共に人々の中に入り共に生活をされ、キリストと一緒に語り合い、キリストの様になりたいと祈り願い聖痕を受けた場所でもありました。ここでは毎日午後 3 時になるとイエス様が大好きだったフランシスコと一緒に十字架の道行きをされます。そう毎日です。800 年ずーっとここの神父様達は十字架

の道行きを行い、私もその道行きに参加し一緒に歩きました。

ここの修道院には、宿泊施設があり多数の人々が泊まれるよう簡素だが清潔な施設で深い静寂の中での一泊でした。

そしてこの修道院は、初期の小さな御聖堂と今の大きな御聖堂があるのですが、私達はその小さな御聖堂でミサを捧げました。

ここは、標高が高く冬は寒く雪も降る、こうゆう場所でフランシスコは仲間と共に祈り仕事をし、ふもとの村へ出掛けて行き寄附をつのり、それを貧しい人々や子どもに分け与え福音を皆に伝えていました。

私もこの静かで、祈りのうちに生活する体験を少し味わい感じさせて頂いたことに感謝しました。

このラ・ヴェルナの修道院にいと、タイムスリップした感覚に陥り、フランシスコの優しさと静けさのうちに心が「ああ、シンプルな生き方、食べて働いて、祈って、寝て、人が生きて行く為の行動だけが必要で、あとは付け足しだな」と思いました。現代の私は、いかに無駄な事に心をくだしているのかと改めて考えさせられました。



フランシスコのように、イエス様を兄弟のように愛し、語り合い、祈り、笑い、シンプルに生きて行きたいものだ……

下山するとすぐ現実の私にもどり、シンプルに生きられない私がありました。そう、それでも一番大切なことは、こうゆう私を私が認め(イエス様にたちかえる事)そして又新たな生き方に向き合い歩いて行く事なんだなと！

アッシジの巡礼で私は、イエス様は無限なお方なのだから恐れず、素直に、彼に相談し一緒に歩いて行く事、彼はそれを切に私に望み、私の歩調に合わせて歩いて下さり待っていてくださる方なのだ、と言うことを改めて感じさせられた旅でした。



手許には 10 年前、2016 年 9 月 19 日のカードがあります。白浜司教様の司教叙階着座記念のもので、大切にしておいたものです。

この度、司教様が職を退くこととなり、ご病気がおありだということだそうです。『広島教区の日』に 10 周年のお祝とセレモニーに参加をした帰り際に、人の縁の不思議と神様の計らいをかみしめました。家の大黒柱を失った様で、どこか所在なく、辛さで胸がいっぱいでした。ここで少しふれさせて貰えればと思い筆をとっています。

司教様は、お近くで接すると、とても人間的なあたたかさを感じる方、そして人に対する配慮と飾り気の無い美しさを持ち合わせた方、そんな風に思っていました。丁度、お役に着いていた経過から、お傍で拝見することもありましたので、いつも私は緊張をしましたが、それをよそに静かに語りかける様にお話をされ、充実した楽しい時間も過ごさせて頂きました。

どんなに心の通い合った友人だとしても、突然にさよならが来て、私自身も裏切られたり、また傷つけた人もありました。心の中はあんなに仲良かったのに……どうして？と訴え涙をこぼしたり、時間というものは無常だと。最近では人生は流転をするものなのだなとつくづく思います。

人を失った分だけ、人を理解し、目立たなくとも強くあり、ほこらしく生きる人の生き方の足跡を人は少し位淋しい方が解るのかも知れません。

「さようなら」は辛いです。そして人は自分の望みとは違うことにそう過すると自然と自身の弱さを見つめ、無力さを知ることになるのだと思います。生き方を変えてゆく力になるのだとも思います。10 年という歳月は短くも長くも私にはありましたが、その先は司教様が残され、これからも生き続ける表明の聖書の箇所を声に出して読み、心に刻みつつ、また新たな一步を踏み出す勇氣として受け止めようと切に思っております。

『父よ、わたしを御手にゆだねます』（ルカ 23・46）

どうぞ、お元気でいらしてください。満ちたりた時と優しさをくださり、本当に有難うございました。



【ブラザー阿部のみ言葉おすそわけ】～ルカ福音書 16 章～

『子よ、思い出してみるが良い。お前は、生きている間に良いものをもらっていたが、ラザロは、反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで慰められ、お前は悶え苦しむのだ。』

今日は、久しぶりに福音書に戻ります。

この箇所も、良く知られた箇所、分かりやすいたとえです。

生きている間に良いものを得ていた金持ちと、貧しいラザロ。この 2 人の天国での対比が読まれています。

この世で苦しむ者が天国で報いを受け、金持ちが炎の中で苦しみを受ける。

私たちは、貧しく、苦しみの中で生きれば永遠の喜びに入るのでしょうか。金持ちは天国には入れないのでしょうか。

そういう意味では無いと思います。確かに、貧しく、苦しむ人の方が、天国に入りやすいかもしれません。

大切なのは、自分の才能、能力、そして、もっている富を、どう使うかだと思います。

この世界で、富む人、力のあるものが、貧しく、弱い人のために心を向け、手を差しのべる世界であれば、神の国の平和の実現は近いと思います。

そして、世界から争いは無くなるでしょう。

昨日話しましたが、神から頂いたすべての恵みを、すべてが自分のものではなく、与えられたものとして、神さまの光栄のために用いること。

そして、貧しい人は、神さまの恵みを、心と体で感じることを大切に、感謝して生きること。

そして、すべての人に、神の愛を伝えることが出来ることを感謝して歩むことです。

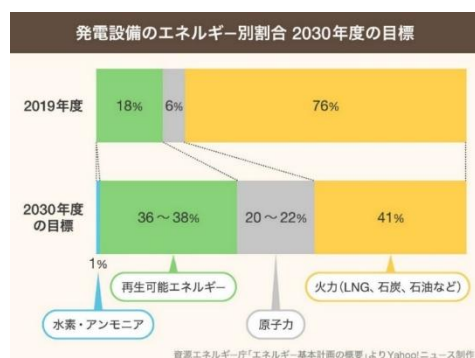
今日も、アレルヤ唱にピッタリの言葉が歌われます。

それを最後に送ります。

「アレルヤ、アレルヤ。イエス・キリストは富んでおられたのに貧しくなられた。あなたがたがキリストの貧しさによって富むように。アレルヤ、アレルヤ」

明日もキリストの貧しさを生きることが出来ますように。

【南相馬便り 2026 年 10 月】 援助マリア修道会 南相馬修道院 北村令子



政府は、6月初旬に、今後のエネルギー政策を原子力に大きく舵を切りなおすことを公表しました。

2030年度の発電設備の割合の中で、原子力による発電を20%以上を目標にすると。

今後15年間で5基の原発を建て替える。と。

1基に数兆円かかる原発です。

AIの普及で電力需要が増加することが主な理由のようです。

2050年代には日本の人口は、1億人を切るほど減少すると言われています。

人口の減少は、消費も減少するけれど、収入も減少するはずですね。

原発のリスクは福島第一原発の事故で、骨身にこたえるほどわかったのではないのでしょうか？ひとたび起これば、その賠償費用などが捻出できるのでしょうか？復興には100年単位の時間と経費がかかるのに。

建て替え、新規の増設などの費用はどのように賄われるのでしょうか？



国民の税金も減収となるはずなのに・・・このように考える私の考えは

愚かな考えかもしれませんが、将来を心配する老婆心（まさしく老婆ですが）から言わせていただきたいと思います。私はそのころには、もう、この世にはいないと思いますから、心配してもどうしようもないことですが、やっぱり、未来に生きる人たちのことが心配です！！

（福島民報 2026 年 6 月 6 日）



わたしの召命物語 （続編）

以前に書いた事ですが、私はカトリックの高等学校に入学したにもかかわらず、宗教の時間にあまり興味がなく、旧約聖書を紐解いて講義をしてくださるシスターのお話を真面目に聞いていませんでした。シスターの口から「神様...」という言葉が出るたびに、そんな見ることも触ることもできないもの、存在するかどうかわからないものに頼ることなんて馬鹿げたことだと、窓の外を眺めながら、鼻先で

笑っていました。もちろんそんな態度はおくびにも出さず、まじめな顔をして、空事を考えているような生徒でした。

高校 2 年生の時の出来事がなければ、どんな私になっていたのでしょうか？！

そんな私がある日曜日、秋晴れのどこまでも青い空を眺めて山に寝っ転がっていた時、谷底に引き落とされるような感覚に、「たすけてくれえ～」と叫んで、はっと気が付いたのです。今まで、自分は自分で一生懸命頑張って生きてきた、父がいないので母に心配かけないように精一杯生きてきた、甘えることをせず頑張って良い子で生きてきたと思っていたが、実は大きな手の中で、包まれて生きていたんだと気付かされました。ああ、この私は支えられて生きていたんだと。この大きな手が神様なんだ。と。

そしてまじめにカトリック要理を勉強して、洗礼を受けました。

イエスは神を父、お父さん（お父ちゃん）と呼べと。お父さんを知らない私は、ピンとこなかったのですが、ずっとお父さん探しをしていたように思います。

シスターになって学校に勤めて 5 年ほどたった時、学校に行きづらくなり、人格分裂を起こしました。霊的指導者のシスターから、「今までの人生で自分に影響を与えたと思う人を、列挙してみなさい」と言われ、一番尊敬する母から初めて、きょうだいや先生やシスターなどを書き上げていきました。ふと不在の父のことが頭をかすめて気になり始めると、一番影響があった人は不在の父だと気づきました。

父親捜しの心の旅は、イエスが「お父ちゃん」と呼べと言われた父なる神との出会いという素晴らしい大きな恵みの体験でした。背中にしっかりとした背骨が入ったように感じた父なる神との出会いでした。私は自分の背骨を意識するたびに、父なる神様の力強い支えを感じ、安心して歩み続けることが出来るのです。

「神はどんなことがあっても私の魂を追い続けられました。」

「慈悲深い神（父なる神）は、私を御腕に抱き上げて、温めてくださいました。」

私は神の内に再び新しい生命を得たのです」

「私の冷たさ、惨めさ、私の存在すべてに対して、その愛と限りない全能をもって、『私の父は絶えず働いておられます』」

「神は何と慈しみ深いお方でしょう。何と優しくその憐みの中に私を守ってくださったことでしょう。この神に感謝するためには永遠の時間でも長すぎることはありません。」

(マリーテレーズドスピランの祈り)

こうして、この祈りを深く味わうことが出来るのです。

今日はここまで。皆様お元気でお過ごしください！

【10月・11月の行事予定】

10 月		11 月	
4(日)	日曜学校	1(日)	諸聖人
16(金)	教区召命合同祈りの集い	2(月)	死者の日 ミサ 10 時・19 時
	世界宣教の日	15(日)	七五三
18(日)	14 時～墓地ミサ	22(日)	王であるキリスト 教会大掃除
24(土)	司教司牧訪問 活動報告	29(日)	待降節第 1 主日
25(日)	堅信式		

【編集後記】・・・ちょっとした気の持ち様・・・

昨日は72歳の誕生日 家族初め多くの方々からお祝いの言葉をいただいた 有難かった。でもこのところの知力・体力・気力の低下・不定愁訴には悩んでいる 家族に「老いを痛感しているし喜んでいられない」と愚痴ったら 息子に『老いは「変身」だから日々「変身」を楽しんで』と諭された。なるほど、日々沸き起こって私を悩ます不定愁訴までも「変身」の一つだとしてその変化を楽しむ事ができたら ちょっと気持ちが楽になった気がした (N.T.)